Make Olympic History　オリンピックを過去のものに
――「開催1年前!? 反五輪国際イベント」

２度目の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定してから６年のあいだ、オリンピックがいかにたやすく人々を追い出し、犠牲を強い、桁外れに公金や公共空間を奪いつくす超法規的なイベントであるか、私たちは目の当たりにしてきた。街中に工事現場と五輪エンブレムが増殖する一方で、マスメディアのほとんどが五輪スポンサーに成り下がり、新国立競技場建設の二転三転や賄賂招致疑惑など、オリンピックの綻びはあっという間に過去の出来事にされていく。暴力的な立ち退き、野宿者排除、建設労働者の相次ぐ死亡事故、酷暑でのボランティア動員、オリンピック最優先で拡大する所得格差と貧困の常態化は、生命に関わる危機として私たちの前にすでに立ち現れている。

そして、東電福島原発事故による放射能被害は、「復興五輪」を演出するため避難者切り捨ての帰還政策と聖火リレーで収束させられようとしている。１９６４年がそうだったように、オリンピックを華々しく開催さえすれば、その負の歴史はたやすく修正され、歴史そのものから葬り去られてしまうだろう。

しかし、一方的に奪われた人々の喪失の記憶まで消し去ることはできない。葬られるべきは、世界中で多くの人々を苦しめているオリンピックの方なのだ。オリンピック反対の意思表示を続けるなかで、私たちは過去の開催地、現在進行形でオリンピックに抵抗する人々に出会うべくして出会ってきた。その多くは女性たちで、この７月、みな東京に来たいと言ってくれた。翻訳・通訳者の強力なサポートのもと各都市共同で企画した「開催1年前!? 反五輪国際イベント」の1週間は、想像以上にパワフルでエンパワメントに満ちたものだった。２０２８開催が決定しているロサンゼルスの「NOlympics LA」は、総勢15人ものメンバーでやってきた。「Rio on Watch」のメンバーや、２０２４パリからも「Non aux JO 2024 à Paris」のメンバーが駆けつけてくれた。韓国「平昌オリンピック反対連帯」とは、２０１８年2月の平昌五輪開催現地、11月東京での反オリンピックトーチ引き継ぎイベント以来の嬉しい再会を果たした。

７月20日、私たちも参加する東京の反五輪ネットワーク「２０２０オリンピック災害おことわり連絡会（おことわりンク）」主催の新国立競技場・湾岸フィールドワークで始まった国際連帯の1週間は、ふたを開ければ２０１２開催地のロンドン、２０３２立候補が浮上しているインドネシア、他にもトロント、マレーシア、香港など、知り得ただけでも30

新国立競技場・湾岸フィールドワーク（2019年７月20日）

人を優に超える海外からの参加があった。連日の反五輪イベントは、元プロサッカー選手で「祝賀資本主義批判」の提唱者ジュールズ・ボイコフさん、スポーツジャーナリストのデイブ・ザイリンさんによって、The Nation紙に連日のように記事化され配信された。東京五輪開幕1年前となる7月24日夜、約230人の参加で「No Olympics Anywhereオリンピックはどこにもいらない」の声をあげた「オリンピック大炎上新宿デモ」の同時刻には、SNSを通じて、五輪返上を実現したデンバーやハンブルク、カルガリー、リオ五輪で居住の権利をかちとったヴィラ・オートドロモなど各地からの連帯のメッセージが溢れかえった。

有楽町・国際フォーラム前にて、反五輪国際連帯街頭アピール（7月24日）

反五輪の会主催イベントはもう少し密度の濃い集まりを各国共同でつくりだすことに比重をおいた。22日夜、都内某公園にてウェルカム・パーティー「ナイトピクニック」、24日はデモの前の時間帯に浅草雷門前、そして有楽町・国際フォーラムでの五輪盛り上げイベントに対抗して国際連帯反五輪街頭アピールを敢行。立ち退きと闘うLAの移民家族の怒りのこもったスピーチ、平昌メンバーの猛暑を吹き飛ばす被り物パフォーマンスは多くの通行人をひきつけた。

26日、千駄ヶ谷区民会館で開催した2つのワークショップは、私たちの想定以上に多くの参加者を集めた。第1部「オリンピックと環境問題を考える」は、平昌オリンピック反対連帯、長野から「オリンピックいらない人たちネットワーク」の江沢正雄さん、さらにマレーシアの参加者から東京五輪用に違法伐採されている熱帯林の問題について報告してもらった。第2部「HOMES NOT GAMES――オリンピックと居住権」は、NOlympicsLAの提案で小グループに分かれてジェントリフィケーションの各地域の状況についてミーティング、全体討議で共有。釜ヶ崎労働福祉センター閉鎖をたたかう大阪の仲間たちも駆けつけ、現場での飯作りのノウハウを生かしイベントを通じて支えてくれた。そして迎えた27日のファイナルイベント「Make Olympic History」は、ジェンダー、パラリンピック、学校教育、労働、軍事化などテーマごとの報告と、都市間パネルディスカッション、そしてこの日のために各都市間で討議してきた共同声明を読み上げた。Make Olympic History オリンピックを過去のものに、私たちの手で。

首藤久美子／反五輪の会

上智大学にてパネルディスカッションMake Olympic History。反五輪共同声明を読み上げた（7月27日）